



## カリスマ先生に聞く！

日能研 南浦和校 室長  
伊勢本 晃 先生

vol.3

ガウディアは、日能研関東と河合塾グループという受験に強い会社で作った学習教室。そのため、中学受験準備として通ってくるお子さまが多いのが特長です。そこで、今回は中学受験準備について日能研 南浦和教室の伊勢本室長にお話をうかがいました。

保護者の  
お悩み

中学受験を考えているのですが、  
いつぐらいから始めるのがいいですか？

**進学塾には小3が半数。残りのほとんどは小4から。入塾前から競争は始まっています！**

中学受験は、僕は先行逃げ切りが勝つと思っているんですね。とはいえ、やはり子どもの気持ちと学力のバランス、そして集団指導の上からも小3くらいから始めるのがよいと思います。日能研の場合も、2月が新年度のスタートなので、小3に上がる2月に入ってくるのが半数。1割が小5で、小6は転塾で来る子が数名ほど。残りのほとんどが小4、つまり小4に上がる2月ですね。本格的なクラス分けは小4からで、小3の10月に行う全国テストで決まります。南浦和校は5クラスありますから、小4になった時点でもう5クラスの差がついてしまうわけです。一番上のクラスにいる子たちを見ると、やはりみんな家庭で勉強してきているのがわかります。つまり、塾に入る前にもう学力に差がついてしまっているのです。もちろん入ってから入れ替えはありますが、競争は入塾前から始まっているというのが現実です。

**入塾前につけておきたいのは、やはり「読み・書き・そろばん」。そろばん=計算で、筋トレと同じです。**

では、どんな力をつけておけばよいかというと、やはり「読み・書き・そろばん」。早い段階できちっと「読み・書き・そろばん」ができる子は伸びていきます。中でも計算は本当に大事。塾ではほとんど授業で計算は扱いません。小4のスタートのところで扱う程度でしょうか。ですから、計算力がつくかどうかはご家庭での取り組みにかかってきます。正確にミスなくできるまで何度も何度も繰り返す。計算は正確性が第一なんです。時々間違っ計算機なんて怖くて使えないでしょう？ ちなみに計算を間違っるのは、暗算をするときです。暗算は「このくらいならできる」と思ってやるので、気持ちにおごりが生まれ、それがミスにつながっていく。だから、僕はそろばんをやっているという子はちょっと注意してみるようにしています。

とはいえ、入試ではスピードも問われますので、全て筆算でやるのは正直厳しい。1桁×2桁の計算や、足し算・引き算くらいは、暗算でやってほしいところです。もちろん怪しい場合は筆算で構いません。暗算か、筆算か、正確に答えを出すためにどちらを選択するのかを自分でつかめるようになるまでトレーニングするのです。計算はいわゆる基礎体力の部分ですから、筋トレと同じで毎日トレーニングしないと身につけません。筋トレだって、ジムに来たときだけやって、家でゴロゴロしてばかりだと効果はありませんよね。その点、ガウディアは教材がプリントになっていますから、毎日の達成感が味わえます。子どもは冊子だと「まだこんなにあるのか」と心理的な負担が大きいですが、プリントだと「この1枚をやればいいんだ」とゴールが見える。毎日のトレーニングがしやすいようにできているなあと思いますね。

## 「読み・書き」=漢字と読書。入試の国語で一番できないのは、読解です。

「読み・書き」にあたるのは、国語の漢字と読書です。今は携帯などがありますから、漢字の優先順位は下がっていくかもしれませんが、言葉を知らないと本は読めません。ですから漢字は、漢字を正しく書けるように、という漢字学習ではなく、ボキャブラリーアップとしての学習と捉えてほしいですね。そして、よく親御さんに言うのが、「国語の学習は語学ですから英語と同じつもりで取り組んでください」ということ。日本人だから日本語は自然にできる、くらいの感覚でいると努力を怠ります。国語は語学なんです。英語ならまず単語を覚えますよね。この単語にあたるのが漢字です。そして英語の長文読解をやる時など、英語を声に出して読みますよね。国語もそう。最低でも二日に1回は文章を読んでほしい。授業で先生が解説してくれた文章や、ガウディアのプリントでやった文章は頭に入っていますから、それを声に出して読んでみてください。普段、読むのが苦手ややっていない子がテストの時だけ速く読めるなんてことはありません。そして、子どもたちが国語で一番できなくて引かかるのは読解なんです。

## 読解を得意にするには「本が楽しい」と感じさせること。

入試の文章の読解は、大きく分けて「物語」と「論説文」のふたつがあります。論説文は大人向けに書かれた文書が多いので、テーマ自体を子どもが理解できないということも起きてくる。だから入試問題に出題するのはなかなか難しいです。その点、物語は子どもが理解できる内容のものが多いので結構出せる。だから、特に男子校は物語がメインのところが多いです。でも、相手の気持ちを察するとか、行間を読むとか、男子は苦手ですからね。これは経験値に依るところが大きくて、それを補うのが読書なんです。

本屋さんに行ったとき、お子さんはワクワクしますか?こんなに読んでない本があつて、まだ出会っていない世界があるんだと思うと、幸せな気持ちになるでしょう?「本って、楽しい」と思うことができれば、自然に本はどんどん読むし、知的好奇心も広がっていきます。

そのためにはどうかご家庭にお子さんが好きそうな物語を置いてみてください。最初の一冊が肝心です。ちょっと読んでみておもしろくなさそうなら、別の本に変えてしまっても構いません。ちゃんと好きな本に出会わせてあげることが大事です。そして、いつもお子さんの手の届くところに本がある、という環境を用意して、親御さんも一緒に本を読みましょう。親が全く本を読まなければ、子どもも本は読みません。子どもは環境で左右されるところが大きいので、読み聞かせをしたりなど、幼児期から自然な本への関わりを親御さんにはお願いしたいですね。

## 算数を得意にするには「数字と仲よくなる」アプローチを!

算数も得意になるようにするにはコツがあるんですよ。それは「数字と仲よくなる」こと。たとえば九九。実は算数の先生って「 $7 \times 7 = 49$ 」がすごく好きなんです(笑)。というのも、1の位が9の九九って、1の段以外では「 $7 \times 7 = 49$ 」しかないのです。同様に1の位が1で終わるのは1の段以外は、「 $3 \times 7 = 21$ 」「 $7 \times 3 = 21$ 」と「 $9 \times 9 = 81$ 」だけ。だから1の位を知っておくと、9や1が出てくると、この九九を使うのかなとピンとくる。割り切れない数として素数に興味が出てきたり、それで51という数字を見ると、素数の17で割れるな、とかね。問題を解く、という視点ではなく、数字自体に興味を持って親しんでいくと、いろんな気づきが生まれてきます。「数字と仲よくなる」と、子どもは自然と算数が得意になっていくのです。

車のナンバーを見て「この数字を使って10を作りなさい」とかクイズ的な遊びをしたり、買い物のときにかごに入れながら暗算をしたり、消費税を計算したりしてもいいですね。普段の生活から算数や数字に親しみを持つように心がけていくと、もっと数字と仲良くなれると思います。



## その教科が得意になるには「好き」がいちばん！

国語にしても、算数にしても、得意な子はその教科が好きだからなんです。内容に興味を持ったり、楽しいと感じているからなんです。だから、幼児でも低学年でも、その教科を得意にするには、なるべく早く「好き」になるようなアプローチをしていくことが大切です。

そのとき気をつけたいのは、家族だと感情が入りますから、「どうしてできないの」などと怒ったり、言い過ぎたりということが起きてきやすい。それで子どもが「勉強、楽しくない」と思ってしまったら終わりです。「子どもに怒ってしまいそうだな」と感じたたら、そこは他人に任せる、でよいのではないのでしょうか。家事だって今はアウトソーシングの時代です。勉強をしている、その頑張りを他人が見ていてくれると思うから、子どもは頑張れるのです。

ガウディアのプリントを見て、同じような問題の市販ドリルを買って家でやれば同じ、と思うかもしれませんが、私たちはプロであり、適切な見守り方や寄り添い方を知っています。日能研があり、ガウディアがあるというのはそのためだと僕は思っているんです。

## 伸びる子は、素直に受け入れて、素直に努力できる子。筆箱とノートを見るとわかります。

本棚に本を整理するように、人間は脳に記憶を整理していくので、その子がノートに情報をどう整理して書いていくのを見れば、頭の整理の仕方がわかります。

筆箱も丸まっている鉛筆が入っていたり、消しにくい小さくなった消しゴムが入っていたりしますが、成果を出すには道具も大切です。イチローのお父さんも野球を始めるときに子ども用ではなく、一番いいグローブを買ってあげたといいます。細かいかもしれませんが、こういうところで子どもの思考や姿勢が見えてきます。ノートだって、筆箱だって、最初は整理して使えなかつたりしますよね。しかし、先生が言ったことを素直に取り入れて、素直に実行して、素直に努力できる子であれば大丈夫。ちゃんとその子は伸びていきます。言われたことを素直に聞ける子であるかは、子どもが伸びるかどうかの大事なポイントなのです。

ただ、矛盾しているかもしれませんが、人はいろいろです。アインシュタインもそうですけれど、そういう人が人の話を素直に聞かかといったら、そうとは言えませんよね。一部の天才と言われる人は、整理もできないし、忘れ物はたくさんするし、人の話も聞かないし、でも算数はずば抜けてできる。そういう人もいます。今、私が話したのは普通の子どもが中学受験に臨むための最適な方法にすぎません。どうか親御さんには、お子さんのタイプを見極めて、いいところを伸ばしていくことを考えてほしいですね。道は一本ではないですから。



日能研 南浦和校 室長  
伊勢本 晃先生

指導歴 15年。担当は算数。“楽しい”授業というのがモットー。  
「生徒とのライブ感を大事に、そのとき、そのときの学びを残るものにしていきたい」と語る。



### 日能研 南浦和校

南浦和校は、現在約400名の生徒が在籍。  
南浦和駅から徒歩1分の場所にあり、地域選抜クラスの開校教室のため、幅広いエリアから優秀な生徒たちが通ってきている埼玉県内トップレベルの人気校。校舎内にガウディア教室も併設。

[http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site\\_code=DS](http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site_code=DS)